

研究課題(テーマ)		県内就職率アップには初年次教育での動機づけが有効! - 教養ゼミで社会人とのチーム活動で県内企業との距離を縮める - (実施)	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	主任教授	福原 忠
実施責任者		准教授	清水義彦
研究結果の概要			
<p>○遂行内容</p> <p>令和4年度前期・後期の教養ゼミ(清水担当)30コマで実施した。12名のゼミ生が3名×4チームに分かれ、企業との課題解決型キャリア教育講座を展開した。前期は(株)北陸博報堂様と5週間で課題解決提案1位を競い合った。出された課題は、 「インターネットメディアやデジタルデータを活用した富山県立大学の知名度・認知度の向上策を提案せよ(入試広報を含む)」 対象：富山県内外の高校生等 PR期間：令和4年10月からの3か月 予算：10,000千円(税込)以内 <u>企業への提案という緊張感の中での探究活動の過程に本プログラムの本質がある。</u> 翌週からコーセル(株)と5週行い、リベンジの機会を得たチームは全力を尽くした。後期は前期で1位を獲得した「富山県立大学の認知度、知名度向上策」として、県内外の高校生を対象としたプロモーションビデオ制作を行った。知識・技術・機材がない1年生が制作できるものではなかったが、DX教育研究センターのご理解を得て、大学院生の有償サポートがあり完成にこぎつけた(右図)。 作品はYoutube公開、事務局の企画・広報グループと連携し、ドンマス教授 twitter でも発信、公開された。</p>   <p>○キャリア形成活動による成果</p> <p>毎年、本講座の成果の有無を検証する目的で、社会人基礎力12の力(経済産業省,2006)を指標として定量分析し結果を公表している。本プログラムで重要視している主体性(物事に進んで取り組む力)5%水準で有意差(効果量高)が現れた。そのほか、創造力(新しい価値を生み出す力)、発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)にも有意差が見られたことは、計画時の達成目標に近づく結果となった。「教養ゼミの1年間を振り返って」というテーマでの自由記述をテキストマイニングした結果では、後期のDX教育研究センターで大学院生の指導を受けた4か月間が今後の大学生活に大変有意義なであったことが示された。目指していた個々のロールモデル獲得が達成できた学生もいることが読み取れた。</p>			
今後の展開			
<p>本事業は、教養ゼミで1.学生が企業人との協働し、4年後に出る社会で求められる能力の高さを体験から知ること、2.在学中に主体的に課題解決するマインド「工学心」を身に着け自己実現に向かう学生の育成を狙っている。本事業がキャリア支援プログラムの1つとして学内の恒常的な位置づけとなるよう継続したい。学内での横展開の可能性を引き続き模索する。</p>			